

テーマ「住みやすく魅力ある舟着にするためには!？」

舟着地域においても少子高齢化により人口が減少する中、舟着に住んでいる人が安心して暮らし続けるため、世代を超えて舟着が続くためにはどうするかを地域の皆さんで話し合いました。

参加者42名 + 関係者5名

舟着の魅力とは

自然が豊かなところ

- ・市川の桜、鳥原の彼岸花、吉川のホタル、鳥原のピオトープ
- ・季節の移り替わりが、山、川、畑で感じられる
- ・くだもの、野菜の栽培が豊富にある
- ・子どもが自然に触れられる

住環境・土地の広さ

- ・静かで安全に暮らせる
- ・空気、星空がきれいで、道路もいつもきれいに管理されている
- ・土地が広く駐車場に困らない、パーベキューがしやすい、騒いでも苦情が少ない、ペットが飼いやすい
- ・隣が近くなく大らかに暮らせる
- ・災害が少ない、津波が来ない

交通環境

- ・車であれば、交通の便が良い（高齢者には不便）
- ・道路が空いている
- ・バス通学が良い経験になる（吉川）

人のつながり

- ・みんな優しく、人があったかい
- ・地域ぐるみの取り組みがあり、まとまりがある
- ・人の距離感が近く、つながりが強い、隣近所の人の顔や名前が分かる

名所、歴史

- ・風切山（弘法山）の八十八ヶ所にある280体の石仏、立岩観音、光岩、頂上からの眺望
- ・舟着山に登る方が多い

人口を増やすには

移住

- ・移住者が得になる制度をつくる
- ・空き家バンクを活用する、空き家を活用する仕組みを検討する
- ・移住者に市役所の移住定住担当部署を紹介する
- ・市街化調整区域を変更して家を建てやすくする、荒れた農地に家が建てられるようにする
- ・田舎ならではの雰囲気、ずっといたくなるような関係をつくる

結婚・出産

- ・子どもが産まれたときにお祝い金を出す
- ・こども園や小学校を継続し、病院も作る
- ・男女が付き合うきっかけを作る

Uターン

- ・親世帯と二世帯で住むメリットを伝える、同居すると補助金が出る制度を作る
- ・若者が働ける場所をつくる
- ・商業施設を増やす

PR

- ・四季の魅力をアピールする
- ・SNSを活用して田舎の良さをアピールする
- ・舟着山を活用したキャンプや自転車等で良さを知ってもらい、パラグライダー等のスポーツができる場所を増やす

地域のつながり

お役

- ・消防団、小学校PTA、こども園保護者会、お祭りなどの様々なお役が地域の付き合いとして、つながりを作ることができる
- ・災害時の訓練に参加する
- ・地域行事への参加の呼びかけを行う、地域の活動に積極的に参加する
- ・健康に気をつけて、いつまでも活動に参加できるようにする
- ・地域の活動団体を継続していく

高齢者のつながり

- ・老人クラブがなくなってきているが、お年寄りが元気なので、集まれる憩いの場をつくる

イベントの開催

- ・舟着地域全体のイベントを開催する、大運動会を開催する、合同の盆踊りや夏祭りを開催する
- ・竹トンボ作りなど子どもが参加できる行事を開催する、親子で参加しやすい行事を開催する
- ・地域で活動する団体が開催するイベントに参加する

現役世代のつながり

- ・若い世代のつながりをつくる

つながりの重要性

- ・日頃からの隣近所の助け合いが、いざとなると助け合う絆になる

災害時の安否確認

住民の把握

- ・人口が少ないからこそ、誰がどこに住んでいるか把握する必要がある
- ・電話をしても出ることができない、高齢で聞こえない、インターネット（スマートフォン）が使えないなどがあるため、あらかじめ名簿を作成する、組単位で作成する
- ・区長、組長、伍長制度があるので、区長から組長に指示を出して名簿を作成する

災害への対策

- ・災害マップを配る
- ・避難所での行動を決める
- ・情報の伝達方法を考える

日頃からのつながり

- ・組単位のつながりを大切にする
- ・近所付き合いを大切にし、声かけや目配りをする、お互いに確認する
- ・組の付き合いに参加や花の水やりなど簡単なお役をつくり、定期的に顔を合わせてお互いに確認する

安否確認の手法

- ・向こう三軒両隣で声を掛け合う
- ・安否確認用の旗を作成するなど地域独自の方法を考える
- ・独居高齢者の方には声かけして確認する
- ・子どもやお年寄りでも誰でも分かりやすいシステムを導入する